

令和3年度 施政方針

令和3年3月定例会市議会の開会に当たりまして、令和3年度に臨む、施政の基本方針を申し上げ、市民の皆様、並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

(安心・安全に暮らせるまちへ)

昨年は、新型コロナウイルス感染症が世界的に蔓延し、日常生活や経済に、今まで経験したことのない多大な影響を与え、今なお感染の収束は見ておりません。

感染リスクと日々向き合いながら、市民の命と健康を守るため、最前線でご尽力いただいております医療関係者の方々をはじめとする皆様に、改めて深く敬意と感謝を申し上げます。また、感染拡大への対策に対しては一刻も早い対応が必要とされたことから、補正予算等の決定について、専決処分をはじめ、臨時会の開催など、市議会の皆様にも多大なるご理解とご協力を賜り、改めて感謝申し上げます。

市民の皆様におかれましては、日々不安を抱えながらお過ごしのことと思いますが、ご自身とご家族、そして地域の医療、地域の経済を守るため、引き続き感染防止対策にご協力をお願いいたします。

当市におきましては、緊急事態宣言等に伴う外出自粛により観光業・飲食業等をはじめ、市内の経済活動に大きな影響が出ております。これまでも、市の最優先課題として、国の地方創生臨時交付金等を活用した市独自の支援事業に数多く取り組んでまいりましたが、今後も厳しい状況が想定される中、地域の実状に即した対策を、適時適切に実施してまいります。

コロナ禍にあっても市民サービスが滞ることのないよう、引き続き新型コロナウイルス感染症対策に全力で取り組むとともに、市内経済回復のための取り組みを進め、市民の皆様が安全・安心に暮らせる飯山市の実現を進めてまいります。

(国、県の状況)

ここで、市政を取り巻く国や県の状況等を申し上げ、ご理解を賜りたいと存じます。

1月18日に閣議決定された「令和3年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度」では、総合経済対策の円滑かつ着実な実施により、公的支出による経済の下支えと民間需要の喚起、民需の自律的な回復も相まって、実質GDP成長率は4.0%程度、名目GDP成長率は4.4%程度で、年度中には経済の水準がコロナ前の水準に回帰することが見込まれており、また、消費者物価は0.4%程度と緩やかに上昇すると見込まれております。

国の新年度予算案は、令和2年度第3次補正予算と一体で「15か月予算」として位置付けられ、感染拡大防止に万全を期しつつ、デジタル社会、少子化対策など全世代型社会保障制度等の中長期的な課題にも対応する予算として106兆6,097億円、前年度当初と比べ3兆9,517億円、3.8%増の予算規模となったところです。感染防止対策として、予期せぬ状況の変化に備え、2年度予算において確保されたコロナ予備費5兆円を3年度予算においても同額計上し、社会保障関係費を1,507億円増額の35兆8,421億円とする一方、歳入では収収の減を6兆650億円と見込んでおります。

また、新規国債発行額は前年度から11兆408億円増額し、公債依存度は40.9%と、前年度当初と比較すると9.2ポイント上昇しております。令和3年度末の公債残高は約990兆円と見込まれており、令和元年度末残高887兆円と比較し103兆円の増額と、国の借金が増加している状況でございます。

長野県にあっては、しあわせ信州創造プラン2.0に掲げる政策推進の基本方針に基づき、各種施策を着実に進めていく中で、今般の新型コロナウイルスや度重なる災害から県民の命と暮らしを守り抜くため、令和2年度2月補正予算と一体的に令和3年度当初予算が編成されました。新年度一般会計予算総額は前年度比946億円、10.0%の大幅な増額で、過去最大の1兆423億円となり、2月補正予算を加えた総額1兆1,155億円のうち、重点的に編成された新型コロナウイルス感染症対応分に1,776億円が当てられています。

このような状況の下、飯山市における財政は厳しい状況に変わりはありませんが、新年度におきましては、引き続き新型コロナウイルス感染症対策、自然災害対策などへの取り組みを最優先課題としたうえで、第5次総合計画後期基本計画を着実に推進するとともに、第6次行財政改革大綱の確実な実施により、持続可能な行政経営体制と財政構造を構築する改革を進めてまいります。

市民各位、議員各位のご理解ご協力をお願い申し上げます。

(令和3年度予算概要と重点的施策)

それでは、新年度予算の特徴と、施策の概要を申し上げます。

予算総額は、一般会計で141億9千万円、前年度比2億7千万円、1.9%の減であります。歳入では市税を前年度比8千2百万円、3.5%減の22億5千8百万円、地方交付税を前年度同額の51億2千万円を計上し、ふるさと納税などの基金の活用、市債等で歳入確保をいたしました。

歳出につきましては、感染症対策のほか、策定から4年目となる後期基本計画のテーマ「北陸新幹線を活用した観光交流人口増、地域産業の創出と育成　そして移住人口、若者定住人口増へ」に向けた魅力あふれる飯山市を作るため、計画最終年度（2022年度）の目標を見据えた施策に対し、予算の重点配分を行ったところです。

以下、新年度の重点施策に関わる事業についてご説明申し上げます。

一つ目は、「新型コロナウイルス感染症対策とデジタル化の推進」であります。

感染症の収束が見通せない中、引き続き新型コロナウイルス感染症対策に全力で取り組んでまいります。

まず、新年度当初から開始されるワクチン接種につきましては、接種事業を円滑に進めるため、医師会及び医療機関との調整やシステム改修、接種場所の確保など準備を進めてきております。65歳以上の方から順に3月下旬からの接種券の発送を予定しており、1日も早く希望する市民の皆様への接種ができるよう、取り組んでまいります。

ワクチン接種や感染防止対策と並行して、市民・事業者への支援及び市内経済対策にも、取り組んでまいります。令和2年度からの継続事業に加え、地域の実状を的確に捉えるなかで新たな効果的な施策についても取り組んでまいります。

教育に関しては、小中学校の児童・生徒全員へのタブレット端末の配備が完了しました。コロナ禍においても一人ひとりに教育が行き届くよう、新しい時代の教育に対応すべく、有効に活用してまいります。

今般の新型コロナウイルス感染症は、日本のデジタル化の遅れ、行政のデジタル化の必要性を一層浮き彫りにしました。国においては、デジタル社会の実現に向けデジタル庁が設置され、民間のほか、様々な自治体において、

テレワークやオンライン会議など働き方の改革が急速に進んでいます。AIやRPAの活用といったデジタル技術の活用は、市民サービス向上のほか、行政運営を効率的かつ迅速にする大きな可能性を秘めております。当市においては新年度を「DX（デジタルトランスフォーメーション）元年」と位置づけ、飯山市DX推進計画の策定等に取り組んでまいります。

二つ目は、「観光振興と交流人口の増加」です。

昨年4月に発出された緊急事態宣言以降、感染症拡大に伴う行動制限等により、人々の移動が規制され、好調に伸びていたインバウンドのお客様の入り込みもない中、観光業を中心に市内事業者にとって大変厳しい状況となっております。

これまで進めてきた新幹線飯山駅を活用した観光振興策に加え、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えたニューノーマルな時代に即した観光振興策を進めていく必要があります。

新年度からは、道の駅「花の駅・千曲川」の施設拡張に取り組めます。農産物直売所の拡張をはじめ、農業・食・アウトドア等の拠点施設を整備することに加え、「かわまちづくり」事業などによる水辺空間の活用と景観形成を一体的に検討することにより複合的な道の駅を整備することで、関係交流人口の増加に向けた取り組みを進めてまいります。

また、インターネットを接続したパソコンなどを使いオンラインでの仕事

が定着することで、勤務地から離れた、より環境のいい場所で仕事をする
ことが可能となっています。2年度において整備したワーケーション用住宅や
市内観光施設等におけるワーケーション環境等を活用し、仕事ができる環境
で、観光や旅行を楽しむことができる場所として、自然環境が良く、アクテ
ィビティ環境が整い、北陸新幹線飯山駅がある飯山市の魅力発信を推進して
まいります。

三つ目は、「移住・定住の推進」です。

感染症の影響により、ライフスタイルが大きく変わろうとしており、地方
が改めて評価されております。当市においては、これをチャンスと捉え、移
住人口の増加につなげていきたいと考えております。

新年度における移住推進施策として、引き続き移住・定住の促進を図るた
め、新たに移住定住促進住宅として、市営住宅金山団地の跡地に1棟8戸の
集合住宅を整備するほか、先に申し上げたワーケーション用住宅等を活用し
た移住推進に取り組んでまいります。

また、若者が定住し、地域を支え、子どもを産み育てていける環境にある
ことが飯山市の持続的発展に不可欠でありますので、定住支援施策について
も一部拡充し、引き続き取り組んでまいります。

これまで定住施策として取り組んできた、就職する市内新卒者の奨学金返
済の補助やJR飯山線による通勤や新幹線通勤に対する補助等、引き続き支

援をしていくことに加え、定住支援事業における三世代等同居住宅建設支援では、同居加算に係る補助額の増額による支援の拡充を行い、また、2年度において国の臨時交付金を活用した新生児に対する出産特別給付金 10 万円の給付について新年度においても継続するほか、少子化対策の一環として新たに、若者世帯の婚姻に伴う住宅取得費用や引っ越し費用を支援する結婚新生活支援事業に取り組むこととしております。

以上、新年度の重点施策の概要を申し上げましたが、その他の主な施策は、後期基本計画の施策体系に合わせてご説明申し上げます。

(そのほか主な施策 後期基本計画施策体系により分類)

一つ目は、自然共生による新しい価値観の発信についてです。

大都市で決して手に入れることのできない四季の美しさ、厳しくも豊かな自然は飯山市にとって最も貴重な資源です。産業・組織・人・地域といった様々な分野における連携を通じ、豊かな自然に恵まれた飯山市ならではの素材や資源を活用し、飯山市の魅力向上と産業の振興を図ってまいります。

遊休農地利用及び地域活性化推進のため、東小学校周辺の菜の花公園の整備に加え、新年度においては、常盤地区堤外等における菜の花の里づくり整備についての支援を拡充し、さらなる地域経済の活性化の場へとつなげていく事業を行ってまいります。

自然との共生に向け、「克雪・利雪・自然エネルギー」については、新たな産業につながる、雪室を利用した地域の特色ある商品開発に引き続き取り組んでまいります。

二つ目は、飯山の四季の美しさを活用したまちづくりについてです。

豊かな自然と調和した信州の北の玄関口として、飯山駅の利用促進と機能の充実を図るとともに、歴史と自然に彩られたまちづくりを進めてまいります。

まちの玄関である駅前の賑わいづくり及び観光等の拠点づくりとして、駅前市有地へのホテル誘致について、新たに事業者の公募に向けて調整を進めてまいります。

飯山城址は整備基本計画に基づき、新年度から5カ年で第2期工事として復元整備に取り組み、まちづくりの拠点としての活用に向けた整備を進めます。

三つ目は、高速交通網による交流の促進についてです。

春夏秋冬を通じて楽しめる広域観光エリアの形成を目指し、地域一体となった広域連携をさらに強化することにより、北陸新幹線飯山駅の開業効果を最大限に活かした、エリア全体の魅力の向上を図ってまいります。

道の駅拡張整備事業や「かわまちづくり」事業への取り組みにより、多彩

な自然資源と食、アクティビティ等あらゆるものと連携し、アフターコロナを見据えたインバウンドの推進を含めた観光振興施策を進めてまいります。

四つ目は、地域産業おこしと若者定住についてです。

自然に育まれた様々な素材や資源を活かせる産業の活性化を図るため、産業の中心的存在である農業分野については、「農業振興計画」に基づいた生産向上事業、農地荒廃対策事業、担い手育成事業を推進し、地域農業の再生・活性化に向けた取り組みを行い、高齢化や後継者不足に対応するため、引き続き、新規就農者や親元就農者へ支援をしてまいります。なお、スピード感を持ち、実践的農業課題を解決するため、2月に「飯山市農業振興研究会」を立ち上げたところであります。

商工業振興としては、企業誘致対策として駅前商業用地を取得し、事業者による出店を促すことで、地域の顔となる飯山駅周辺の商業空間の充実を図ってまいります。

また、2年度において創設した「飯山市企業誘致・移住支援事業」を継続して実施し、県外企業等の市内への本社移転や事業所設置等を促進することで、雇用・就業機会の充実を図ります。

五つ目は、たくましさや郷土愛を育てる教育についてです。

少子化・人口減少による児童・生徒数の減少に伴い、新年度より、「飯山の

新たな学校づくり計画」に基づく新たな小学校づくりとして、まず、概ね5年後の開校に向けた城北中学校区の統合小学校整備が始まります。学校統合により発生する資源（人・もの・財源）を活用し、ICT教育・英語教育や学力向上に向けた施策、ふるさと学習の充実を図るなど、飯山市学校教育の魅力づくりを進めてまいります。

また、小中学校の児童・生徒全員へのタブレット端末の配備が完了したことから、新年度においては、新しい時代の学習に対応すべく、ICT教育利活用に向けたサポート体制を含めた環境整備を進めてまいります。

飯山市には祭りや寺社などに代表される文化遺産が数多く残されており、飯山市独自の風土を形成しております。独自の地域文化を継承し、文化財を保護するとともに、地域社会の活性化や魅力ある観光資源として活用するため、昨年度に引き続き、小菅神社護摩堂修理工事を支援してまいります。

六つ目は、子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちについてです。

全国的に少子高齢化が続く中、いつまでも健康で安心して暮らせることは社会全体の願いです。子どもを産み育てられる環境づくり、年代に応じた健康づくりや介護予防とともに、防災対策も備えを万全なものとするよう取り組んでまいります。

新型コロナの影響は、地域の医療体制に大きな負担となり、地域医療の大切さを改めて感じております。地域における医療体制を確保するため、引き

続き地域中核医療機関に対する支援を行うほか、医師招聘の推進に取り組んでまいります。

また、新年度から新たに、健康寿命の延伸と医療費及び介護費用の抑制に向け、高齢者の特性を踏まえた健康増進に向けた取り組みを推進するため、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業に取り組んでまいります。

少子化が進行する一方で、子育てに係る経済負担や子育てへの不安感が高まっています。出産時に係る支援の拡充、出産特別給付金の継続実施や保育の無償化に合わせた副食費の無償化など、保護者の負担軽減を図る施策に取り組んでまいります。

防災対策として、令和元年台風第19号災害や昨年7月豪雨災害等を踏まえ、気候変動によるゲリラ豪雨や集中豪雨が多発する中で、市街地における排水対策として、新年度から市街地雨水排水対策に取り組み、また、避難情報などの重要な情報についてはメール配信サービスを運用するなど、市民の皆様の安心につながる施策を進めてまいります。

活力あるふるさとづくりに向けた、令和5年度を初年度とする第6次総合計画・第3次国土利用計画の策定に向けて、準備をしております。

少子高齢化と人口減少が進むなか、持続可能な行政の果たす役割も適切な見直しが必要となります。第6次行財政改革大綱の実践による、効率的で質の高い行政運営に努めてまいります。

また、毎年全国から沢山の応援をいただいております、ふるさと寄付金事業については、新年度において7億5千万円の寄付金を見込んでいるところです。市内の特産品等の活性化にも大きく寄与することから、市内団体・企業・事業者等の経済振興対策と市財政の安定化に向けて、引き続き事業の推進を図ってまいります。

以上、施策の概要について申し上げました。

最後になりますが、世界規模のコロナ禍にある中、市民の皆さんには将来に対する漠然とした不安感があるように感じ取れます。こうした不安感を払拭するには、市が打ち出す施策が大変重要になってくると捉えています。

先に申し上げたとおり、4月からは、いよいよワクチンの接種が始まります。希望する全ての皆様が、安心かつ円滑に接種できるよう全力を尽くしてまいります。感染拡大防止と経済活動の両立を図り、市民の皆様が安全・安心に暮らせる飯山市の実現に取り組んでまいり所存でありますので、市民の皆様の一層のご協力をお願いするとともに、議員各位のご支援ご協力を心よりお願い申し上げ、所信表明と致します。

令和3年2月

飯山市長 足立正則